

水産食料品製造業の排水実態等について

1 ホタテに含まれるカドミウムについて

海洋では海水からカドミウムが生体内に取り込まれ、ホタテ貝については他の貝類と比してカドミウム濃度が高いことが知られている。特にホタテ貝の中腸腺（ウロ）には比較的高濃度のカドミウムが蓄積されており、廃棄処分されてきたが、肥料・飼料としての活用のため、カドミウム除去技術が開発研究されているところである。

2 排水実態事例

表 1 ホタテ加工排水実態調査（立入検査等による）（H22 調査）

排水濃度（カドミウム）	検体数（31 事業場）
0.02mg/L 未満	2 9
0.034mg/L	1
0.041mg/L	1

表 2 ホタテ加工排水実態調査（立入検査等による）（H24～25 調査）

排水濃度（カドミウム）	検体数（17 事業場）
0.02mg/L 未満	2 2
0.02mg/L 台	3
0.04mg/L	1

3 排水処理方法

有機成分の高い排水が排出されることから、加圧浮上分離法が多く用いられている。

- 凝集処理法（加圧浮上分離）＋オゾン酸化法
- 活性汚泥法 等

4 排水実態の把握

現在の排水実態調査から 0.03mg/L を超過する事業場が見られるが、詳細な排水実態については、貝の漁獲時期、加工工程、排水工程等も含めたさらなる調査・研究が必要である。